

第 3 次推進計画の策定スケジュール

時期		審議会及び部会の開催	実態調査等
平成 27 年度	8月	第 1 回審議会・諮問 (8月18日) ・平成 26 年度取組み実績及び平成 27 年度計画	
	9月	第 1 回食育推進部会 (9月16日) ・現計画の進捗状況と評価 ・第 3 次計画にむけて	平成27年度県民意識調査の実施 「県民の健康づくりと食育」
	12月	食の安全安心推進部会 (1 回目) ・現計画の進捗状況と評価 ・第 3 次計画への委員から意見聴取	
	1~2月		子ども・若い世代の食生活実態 アンケートの実施
	3月	第 2 回審議会 ・平成 27 年度取組み実績及び平成 28 年度計画 ・各部会からの報告	
平成 28 年度	7月	食の安全安心と食育推進本部会議(政策会議)	
		第 1 回審議会 ・平成 27 年度取組み実績及び平成 28 年度計画	
	8月	第 1 回食育推進部会、食の安全安心推進部会 ・第 3 次計画(案)の検討	
	9月	第 2 回食育推進部会、食の安全安心推進部会 ・第 3 次計画(案)の検討	
	10~1月	パブコメ実施・結果まとめ	
	2~3月	第 2 回審議会・答申 ・平成 28 年度取組み実績及び平成 29 年度計画 ・第 3 次「食の安全安心推進計画及び食育推進計画 (案)」の報告	
		第 3 次計画の策定、公表 (政策会議)	



平成27年度「食育推進計画（第2次）」の推進

キャッチフレーズ

食で育む 元気なひょうご ～みんなでとりくみ つなぎ ひろげる～

計画の期間：平成24～28年度(5年間)

食をめぐる課題

- 1 エネルギー摂取はほぼ適正**
全国平均と差はないが、脂肪の摂取率は目標値(25.0%)を超えている。(男性27.0%、女性29.2%)
- 2 食塩摂取量は減少しているが、まだ過剰**
全国平均より少なく、年々減少傾向にあるが、目標量には達していない。(男性10.8g、女性9.3g)
- 3 野菜の摂取量は不足**
目標量(350g)と比べ100g以上不足している。(243.3g)
- 4 朝食を食べる人は20歳代、30歳代男性で少ない**
朝食を“ほとんど毎日食べる人”は、若い世代において少ない。(20代男性64.7%、30代男性66.4%)
- 5 若い女性のやせが多い**
20歳代女性の4人に1人はやせである。(25.3%)
- 6 男性の食事づくりへの参加が少ない**
食事づくり(買物・調理・後片付け)に参加する人が少ない。(男性26.7%、女性81.6%)
～平成20年度ひょうご健康食生活実態調査結果～

ひょうごの食育の推進

元気なひょうごの実現

「ひょうご“食の健康”運動」の展開

～食事はバランス ごはん、大豆と減塩で 元気なひょうご～

- 食事の基本となり、どんな料理とも合う「**ごはん**」
- 伝統的に食され、健康の保持・増進に効果がある「**大豆**」
- 塩分のとりすぎを改善するための「**減塩**」

- **ごはんを中心としたバランスのよい日本型食生活の普及**
・1日ごはん茶碗4杯(1杯=150g)程度のごはんを食べる。
・「主食>副菜>主菜」の比率で、脂肪の摂取比率を下げる。
- **大豆・野菜の摂取量の増加**
野菜は1日5皿(=350g)を目標に、大豆を含め、様々な野菜を食べる。
- **減塩の推進**
男性8g/日未満、女性7g/日未満を目標※に、更なる個人の努力と加工食品や外食の減塩食品の普及など環境整備により、減塩をすすめる。

※日本人の食事摂取基準 2015 厚生労働省

平成27年度の主な取組

1 健全な食生活の実践

- (新)若い世代の食育力・健口力向上推進事業(健康増進課)
～キラッと☆いい食カレッジ～
大学生自身が生活習慣の課題や行動変容の必要性に気づき、自発的に健康的な生活習慣の実践に取り組むためのワークショップを開催(H27:1会場)
- (拡)おやこdeクッキング(兵庫県いずみ会)
親子を対象に、天然だしの活用や、野菜や魚などの食材から料理を作るなど、調理の基本を学ぶ料理教室を開催(H27:36会場)
- (新)食品の栄養成分表示等の利用促進事業((公社)兵庫県栄養士会・健康増進課)
食品表示法の施行に伴い、全ての加工食品に栄養成分表示が義務化された。相談体制強化に向けた研修会を開催し、消費者の食の選択力向上のための活動を展開(H27:2会場)

2 「農」と食の営みを支える活動の推進

- 県産農林水産物学校給食利用促進事業(楽農生活室)**
学校給食園を設置し、生産者の指導のもと児童・生徒が農業体験を行う等、学校給食での食育推進と、県産農林水産物の利用向上を促進(H27:49園)
- 親子農業体験教室((公社)兵庫みどり公社)**
田植え、生き物調査、稲刈り、飯ごう炊さんまで、親子で米づくりを行う農業体験教室を実施(H27:100家族)



[給食園での体験学習]

3 ひょうごの食文化の継承と創造

- ひょうご伝承料理教室(兵庫県いずみ会)**
子育て世代を対象に、主食・主菜・副菜のそろった日本型食生活や郷土料理、地域の農林水産物を活用した献立を伝える教室を実施(H27:20会場)
- 魚食普及の推進(県漁連・県漁協女性部連合会等)**
県産水産物の消費拡大を図るため、料理講習会の開催や大規模小売店での対面販売の促進など、幅広い世代への活動を展開(H27:225回)



[ちよぼ汁(淡路)]

[じゃぶ煮(但馬)]

4 食育活動の推進と連携体制の強化

- 食の健康運動による実践活動等(健康増進課)**
・ヘルシーメニューの提供や栄養成分表示などを行う「食の健康協力店」を募集・登録し、兵庫県ホームページ等で情報を発信(7,623店(H27.3末))
・減塩食品・調味料の情報提供を実施するとともに、企業に理解を求める。
・「ごはん」「大豆」「減塩」に焦点を当てた「ひょうご“食の健康”運動」のPRや日本型食生活の普及啓発
- スーパー食育スクール事業(体育保健課)**
・食育推進モデル校において食育活動を実践するとともに、大学等関係機関と連携し、子どもたちの食生活や食行動の改善等に向けたモデル実践プログラムを構築し、県下中学校での食育を推進



食の健康協力店

食育推進基盤の充実と食育活動の広がり

■食育を進める基盤整備の充実

- ・県が主体となり、多様な関係者と連携協力し、県民一人ひとりが主体的に食育活動に取り組むことができるよう、「ひょうごの食育」を推進
- ・「食育パートナーシップ事業」等の実施を通じ、新たな食育関係者の発掘や地域における連携体制を整備

■進捗状況

区分	計画策定時(H22)	現状値(H26)	【参考】目標値(H28)
食育活動に取り組む組織・団体数	82団体	325団体	200団体
市町食育推進計画の策定率	73.2%(30市町)	100%(41市町)	100%(41市町)
食の健康協力店の店舗数	6,389店	7,623店	8,000店
直売所等利用者数の増加	18,949千人/年	22,189千人/年	25,000千人/年
公立小・中・特別支援学校における食に関する年間指導計画の作成率の増加	90.3%	96.7%	100%(理念目標)

■行政と地域食育関係者が連携した取り組み

- 子育て世代への食育力の強化 ～働き盛り男性への食育推進～**
事業所健康管理者と食堂(委託給食施設)⇒「野菜たっぷり料理」の提供
【成果】無関心層へ食育を進める意識が高まり、指導リーフレット活用による地域での食育活動の展開が広がった。
- 未来を担う世代への食育推進 ～若い世代の食育力強化～**
保育士養成短期大学と地域活動栄養士会・いずみ会・健康福祉事務所
⇒食教育の検討(健康意識、食事バランス)
【成果】野菜量の摂取変化が見られた。*A短期大学での調査結果
野菜摂取行動:1皿以下60→48%、2皿20→31%
- 地域における食育活動の連携強化 ～食でつながる元気な地域づくり～**
高校・大学といずみ会・JA・栄養士会・学校給食センター・市町食育関係課・農林振興事務所・健康福祉事務所
⇒食育プログラムの展開(講話、ワークショップ、地産地消の調理実習等)
【成果】学生自身が課題を見つけ、意識向上や具体的な行動変容が見られた。(行動変化例:自炊回数増加、朝食回数増加、食事バランスの配慮等)



[調理実習で技術の習得]



[ワークショップで実践内容を検討]

(参考) 平成26年度「食育パートナーシップ事業」の取組

西播磨

■働きざかり男性への食育活動

(龍野健康福祉事務所)

食生活に課題が多い働きざかり男性を対象に、体格や日常活動量に応じた適正量の提示と上手な食べ方を提案



■大学生への食の実践力アップ講座

(赤穂健康福祉事務所)

朝食欠食や朝食内容の偏りなど食生活の課題が多い大学生が主体となって、グループワークや調理実習等の食育プログラムを実施

但馬

■『魚』をテーマに幼高が連携した食育(豊岡健康福祉事務所)

- 高校生を対象に1人でも主食・主菜・副菜のそろった食事を準備できるよう調理実習を実施
- 魚に親しんでもらおうと、海洋科学科の高校生が講師となり、幼稚園児がサンマの缶詰づくりに挑戦



■子育て世代への食育活動(朝来健康福祉事務所)
 幼児と保護者の食生活の実態把握、関係者による情報交換を行い、食育の情報発信拠点である保育所から保護者へ啓発するリーフレットを作成

丹波

■働きざかり世代への食育(丹波健康福祉事務所)

- 働き盛り世代の食意識・実態を把握するため、企業と連携し、食育アンケートを実施
- 1日3食バランスよく食べること、上手に塩分を摂ること、野菜をしっかり食べることを中心に、「美味しく、賢く食べて 元気になるワザ」「明日につながるいきいき Life セミナー〜始めよう、今から!〜」と題し、従業員に健康教育を実施



中播磨

■若い世代を対象とした食育活動の拡充

(中播磨健康福祉事務所)

- 朝食パワー再発見をテーマに、講話、体験学習、パネル展示等による高校、大学、事業所での食育活動を展開
- 子育て世代の課題把握に向けた食生活アンケートを実施



阪神北

■野菜料理でバランスアップ(宝塚健康福祉事務所)

若い世代の健全な食生活の実践を目指し、身近な場所で様々な野菜料理を食べられる環境を整備するため、保育士養成施設の学生食堂運営者と連携し、モデル的に新たな野菜メニューを提供

■従業員食堂を活用した働きざかり世代への食育推進(伊丹健康福祉事務所)

働きざかり世代のメタボ対策を推進するため、事業所健康管理部門と従業員食堂が一体となった食育実践活動を実施(ヘルシーメニューの充実強化やイベントを通じた啓発活動の推進等)



北播磨

■野菜を食べよう(加東健康福祉事務所)

- 北播磨圏域の課題である野菜摂取量の増加をめざし、地域食材を使ったレシピの紹介やクイズなど、地域住民を対象としたイベントを開催
- 併せて、関係機関の連携強化に向けてコーディネートを実施



阪神南

■野菜を食べよう!Go!Go!5皿!(芦屋健康福祉事務所)

- 県民の野菜摂取量の増加を目指し、野菜を使ったメニュー「ベジフルレシピ」を食の健康協力店と連携して地域住民に広く普及啓発
- 地域における食育取組の好事例をもとに関係者が他団体の取組を共有し、自身の活動の振り返りと地域における連携のあり方を検討。



東播磨

■大学生対象の食育ワークショップの開催(加古川健康福祉事務所)

大学生の食の実践力向上を目指し、バランスの良い食事や旬の食材に関する講話や調理実習を実施
 また食育実践の場として、保育所での食育活動へ参加



■小学校PTA対象の出前型食育講座(明石健康福祉事務所)

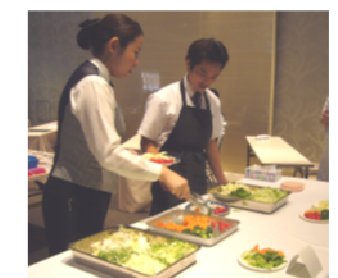
子育て世代の食育力強化に向けて、小学校PTAを対象とし、「日本型食生活の普及」を目指した、調理実習や、食に関する講話を実施



淡路

■従業員の食堂・給食を通じた健康づくり(洲本健康福祉事務所)

- 働きざかり世代の食の実践力アップを目指し、事業所健康管理者と連携し従業員の健診結果を踏まえた自身の食生活の振り返りを実践
- バランスのよい食事の実践をテーマに、1日に食べたい野菜の計量や料理カードを使って料理の組み合わせを考える体験学習を実施



「食育推進計画（食で育む 元気なひょうご ～みんなでとりくみ つなぎ ひろげる～）」の指標と目標値

取り組みの柱	指 標	現状値	データの出典	直近値	目標値	第2次計画評価時のデータの出典（予定）
健全な食生活の実践	朝食を食べる人の割合の増加（幼児1～5歳） （児童・生徒6～14歳） （15～19歳） （20歳代男性） （20歳代女性） （30歳代男性） （30歳代女性）	93.7% (H20) 92.6% (H20) 78.9% (H20) 64.7% (H20) 70.0% (H20) 66.4% (H20) 82.0% (H20)	健康食生活実態調査	—	100% 100% 87%以上	子ども・若い世代の食生活実態アンケート
	毎日、家族や友人と楽しく食事をする人の割合の増加	86.4% (H20)			健康食生活実態調査	
	食事のあいさつ（いただきます・ごちそうさま）ができる幼児の割合の増加（幼児1～5歳）	72.8% (H20)	健康食生活実態調査	—	100%	子ども・若い世代の食生活実態アンケート
	食事づくり（買物・調理・後片づけ）に参加する人の割合の増加 （幼児1～5歳） （児童・生徒6～14歳） （15歳以上男性） （15歳以上女性）	55.1% (H20) 75.7% (H20)	健康食生活実態調査	—	70%以上 90%以上	子ども・若い世代の食生活実態アンケート
		26.7% (H20) 81.7% (H20)			—	
	適正体重を達成、維持している人の割合の増加 （幼児4～5歳） （児童6～11歳） （30～40歳代男性） （30～40歳代女性） （20歳代女性・やせの減少）	97.7% (H23) 92.4% (H23)	幼児・学童身体状況調査	94.5% (H26) 92.7% (H26)	98%以上 93%以上	幼児・学童身体状況調査
		66.6% (H20) 76.8% (H20) 25.3% (H20)	健康食生活実態調査	—	70%以上 79%以上 23%以下	検討中
	腹囲が男性85cm、女性90cm以上の人の割合の減少（20歳以上）	29.1% (H20)	健康食生活実態調査	—	26%以下	検討中
	災害に備え、非常用食料などを備蓄している世帯の割合の増加（世帯）	41.9% (H20)	健康食生活実態調査	—	60%以上	平成27年度県民意識調査
動きを推進 「農」と食の営 を支える活	楽農生活交流人口数の増加	1,081万人/年 (H22)	ひょうご農林水産ビジョン2020	1120万人/年 (H25)	1,100万人/年	楽農生活室調べ
	兵庫県認証食品流通割合（生鮮）の増加	25.6% (H22)	ひょうご農林水産ビジョン2020	31.0% (H26)	36%	消費流通課調べ
	直売所等利用者数の増加	18,949千人/年 (H22)	ひょうご農林水産ビジョン2020	22,189千人/年 (H26)	25,000千人/年	楽農生活室調べ
食文化の継承 ひょうごの	地域の行事食、郷土料理を知っている人、作ることができる人の割合の増加（知っている人） （作ることができる人）	64.9% (H23) 27.1% (H23)	県民モニター調査	—	80%以上 30%以上	子ども・若い世代の食生活実態アンケート 平成27年度県民意識調査
	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合の増加	58.0% (H22)	美しい兵庫指標県民意識調査	72.6% (H26)	70%以上	「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査
	兵庫県認証食品の加工品数の増加	597 (H22)	ひょうご農林水産ビジョン2020	807 (H26)	885	消費流通課調べ
食育活動の推進と連携体制の強化	食育に関心のある人の割合の増加	89.4% (H23)	県民モニター調査	—	90%以上	平成27年度県民意識調査
	食育の意義を理解し、食育活動を実践している人の割合の増加	40.3% (H23)	県民モニター調査	—	60%以上	平成27年度県民意識調査
	公立小中特別支援学校職員の食に関する研修の受講率の増加	24.7% (H22)	体育保健課調べ	28.4% (H26)	50%以上	体育保健課調べ
	学校給食での県産品使用割合の増加	30.0% (H22)	体育保健課調べ	27.0% (H26)	35.0%	体育保健課調べ
	食に関する指導において体験活動（栽培活動など）を実施する学校数（のべ数）の増加	3,179校 (H22)	体育保健課調べ	4,332校 (H26)	4,500校	体育保健課調べ
	家庭・地域と連携した取組を行った学校数（のべ数）の増加	3,280校 (H22)	体育保健課調べ	3,593校 (H26)	4,500校	体育保健課調べ
	ひょうご“食の健康”運動に取り組む食の健康協力店の店舗数の増加	6,389店 (H22)	健康増進課調べ	7,623店 (H26)	8,000店	健康増進課調べ
	地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体の増加	82団体 (H22)	健康増進課調べ	325団体 (H26)	200団体	健康増進課調べ
市町の食育推進計画の策定率の増加	73.2% (H22)	内閣府調査	100% (41市町) (H26)	100%	内閣府調査	